



令和6年度 製品・サービスの カーボンフットプリントに係るモデル事業

(個社支援)
事業概要

2024年6月3日

環境省地球環境局地球温暖化対策課
脱炭素ビジネス推進室



令和6年度製品・サービスのカーボンフットプリントに係るモデル事業 及び関連事業の全体像

- GHG排出量の算定/削減に関するモデル事業は4種類存在
- いずれの事業も、企業・団体による主体的な検討に対し、事務局が伴走支援を行う

支援内容

カーボンフットプリント (CFP)

製品・サービスのカーボンフットプリントに係るモデル事業
個別企業によるCFP算定・表示の支援

- ① CFP算定
- ② CFP削減策の検討
- ③ CFPの表示の検討・実施

本資料の対象事業

**業界でのカーボンフットプリント算定・表示ルール共通化
モデル事業**

業界団体や企業群によるCFPの共通算定ルール・共通
表示ルールの策定支援

- ① 中長期の目標設定、本支援事業のゴールの明確化
- ② 算定・表示ルール策定 (どちらか一方でも可)
- ③ 共通ルールの実証
- ④ 支援事業終了後のロードマップの策定

エンゲージメント

VC 全体での脱炭素経営推進のためのモデル事業
個別企業を起点とした、バリューチェーン全体での脱炭素
経営推進に向けた支援

- ① エンゲージメント方針の策定
- ② 取引先へのエンゲージメントの実施
- ③ エンゲージメント方針・内容についての検証・高度化

**業界でのエンゲージメント方針策定に向けた共通ルール
策定支援事業**

業界でのScope3 算定ルール共通化、エンゲージメント
方針策定に向けた支援

- ① 共通化の目的、中長期の目標設定、本支援事業の
ゴールの明確化
- ② 共通ルール策定
- ③ 策定ルールの検証
- ④ 支援事業終了後のロードマップの策定

支援単位

個別企業

業界団体・
企業群

モデル事業の概要（個社支援）

- 製品・サービスのカーボンフットプリント（CFP）の算定、削減、表示に係る参加企業の主体的な取組を支援し、CFPの知見を得てもらうとともに、排出削減の取組とビジネス成長を両立させる先進的なロールモデルを創出する
- 今年度は4社程度を採択予定（バランスを考慮しつつ、サービス業及び中小企業は積極的に採択予定）

背景と目的

- 「国民が脱炭素に貢献する製品・サービスを選択できる社会」を実現するためには、購買活動における気候変動への影響が、CFPを通じて消費者に「見える化」される必要
- 一方で、CFPの算定等を行う難易度や業務負担が課題となり、取組を躊躇する企業も少なくないところ
- 本モデル事業は、B2Cの製品・サービスを中心に、比較的簡易な算定¹によるCFPの取組を社会全体に普及させるため、先進的なロールモデル創出を目指すもの

モデル事業の全体の流れ

CFPの算定

CFP削減策の検討

CFPの表示²の
検討・実施

——参加企業の主体的な取組を、事務局が支援——

カーボンフットプリント（CFP: Carbon Footprint of Products）とは

1つの製品やサービスについて、原材料調達から消費者が廃棄するまでに排出する温室効果ガスの総量をCO₂相当量で表現した数値のこと



カーボンフットプリント
12.5kg-CO₂e

1. ここでいう「比較的簡易な算定」とは、「カーボンフットプリント ガイドライン（別冊）CFP 実践ガイド（2023年5月、経済産業省・環境省）」に則り、他社製品・サービスとの比較を前提としない算定をいう。
2. 表示はCFP値そのもの、削減量や削減率、等級表示等を想定。GHG以外の環境影響評価を共に示すことも可

対象製品・サービスのイメージ及び対象企業（応募パターン）

- 消費者の行動変容に直接かかわることが可能な製品又はサービスが対象
- 企業の業態に応じ、2つのパターンから選択して応募

対象製品・サービス ※ 記載はイメージのため、対象はこの限りではない

製品	サービス
文房具 おもちゃ かばん 家具 歯ブラシ 化粧品 エコバッグ 傘	シェアリングサービス サブスクリプションサービス 宅配便・デリバリー シェアスペース クリーニング イベント Eコマース 宿泊ツアー 外食

対象企業（応募パターン）

メーカー・サービス業が単独で応募

- 消費者が直接目にする製品やサービスを製造・提供する企業



メーカー等とパートナー企業（取引先を想定）が共同で応募

- 左記の企業を含め、複数の企業が連携（申請者は左記の企業）
- 算定対象となる製品・サービスを製造・提供する企業が参加すること（下線）



【例①】製品の共同応募の例
- 家具ブランドと
OEMメーカー(製造)

【例②】サービスの共同応募の例
- 旅行会社と
ホテル(宿泊サービスを提供)

(参考) 令和4年度に実施したCFPに係るモデル事業の概要

■ 4社を選定し、対象製品に係るCFPの算定等を実施



TOKYO YOSHIOKA

健康にアイデアを
meiji



株式会社コーセー

東京吉岡株式会社

明治ホールディングス 株式会社

株式会社 ユナイテッドアローズ

対象製品 ・サービス



雪肌精 クリアウェルネス ピュア コンク SS



循環型リサイクルポリエチレン袋



明治ミルクチョコレート50g



グリーンレーベル リラクシング
「クルーネック半袖カットソー」

対象企業 (応募パターン)

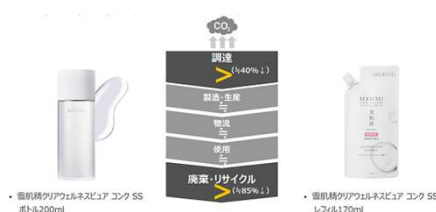
単独

単独

単独

複数企業で連携
(応募時は単独だったが、
複数企業で連携して算定)

実績 (一例)



レフィル容器はボトル容器に比して、
調達と廃棄・リサイクル段階において
CO₂排出量に優位性が認められた



東京ビッグサイトでの展示
また、WEBサイト、展示会
などで販促広報も展開



チョコレートのCO₂排出のホットスポット
(多くCO₂を排出するプロセス)を定量化し、
社内のCO₂削減策を数値に基づき
強力に推進することが可能に



店頭POP等により、
Carbon Neutralityに向けた
活動として取組を発信

(参考) 令和5年度に実施したCFPに係るモデル事業の概要

■ 5社を選定し、対象製品に係るCFPの算定等を実施



甲子化学工業株式会社 チョダ物産株式会社

株式会社
ハースト婦人画報社

マルハニチロ株式会社

株式会社ミニストップ

対象製品
・サービス



防災ヘルメット「HOTAMET」



紳士靴「ハイドロテック ウルトラ
ライト」3品番



SDGs関連イベント
「ELLE ACTIVE! FESTIVAL
2023」



冷凍食品
「白身魚タルタルソース」



「ソフトクリーム バニラ
(食べるスプーン)」

対象企業
(応募パターン)

単独

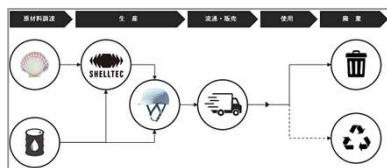
単独

単独

単独

単独

実績
(一例)



廃棄されていたホタテの貝殻を
使用することで、プラスチックのみで
作られたヘルメットよりも排出量が
削減されることを定量化



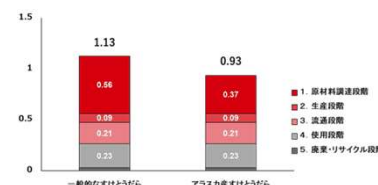
それぞれのCFP算定結果を顧客
が確認できるよう、製品上や広告
で表示予定

一般のライフサイクルの考え方

- 原材料調達
- 生産
- 流通/販売
- 使用/維持管理
- 廃棄/リサイクル

EA！イベント算定時

- 企画
- 原材料
(制作/手配するもの)
- 準備が必要なプロセス
(イベント当日)
- 移動 (人)/搬入 (モノ)
- 会場エネルギー使用
(イベント前日/当日)
- 移動 (人)/搬入輸送 (モノ)
廃棄/リサイクル



自社HPにて対象製品の原材料
である、MSC認証のアラスカ産
すけとうだらを用いた場合の排出
量削減効果をアピール



製品の包装や店頭などで算定
結果の表示を検討、消費者の
行動変容につなげる想定

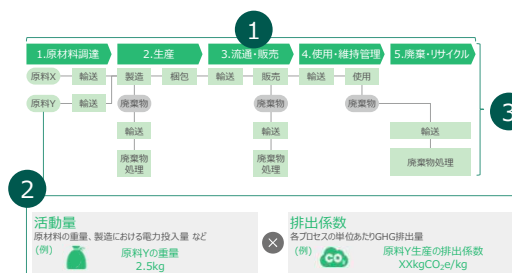
モデル事業で取り組む具体的な内容

- 参加企業は、事務局からの支援を受けながら、製品・サービスのCFPの算定、CFPの削減計画の検討、CFPの表示の検討・実施に主体的に取り組むことで、一連のノウハウや成果物を獲得することが可能

モデル企業

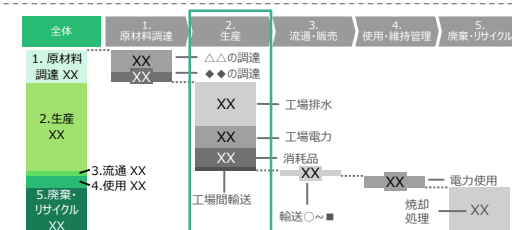
CFPの算定

- 1 対象の製品・サービスについて、原材料調達から廃棄・リサイクルまでの全ての過程をプロセスに分解
- 2 各プロセスの「活動量」と「排出係数」を用いて温室効果ガス（GHG）排出量を計算
- 3 各プロセスのGHG排出量を合計し、CFPを算定



CFP削減策の検討

- CFPを算定した製品・サービスについて、排出削減目標と削減対策を検討
 - 算定を通じて明確になった排出量が多いプロセスに係る対策を特に検討



CFPの表示の検討・実施

- 算定したCFPや、削減目標・削減対策を消費者に伝えるための表示等に係る方策を検討し、実施（マーケティングやブランディングでの活用も含む）



伴走支援



- CFPの算定/削減/表示の取組方法の解説
- 悩みに対するアドバイス
 - 検討の進め方や検討すべき内容
- 経営陣との議論を通じた方向性の明確化 等

事務局

モデル事業に取り組む上での留意事項

- 円滑な事業推進体制の構築や、CFPのロールモデルを創出するという観点から、取組に関する積極的な情報発信が求められる

円滑な事業推進

主体的取組に向けた事業推進体制の構築をする

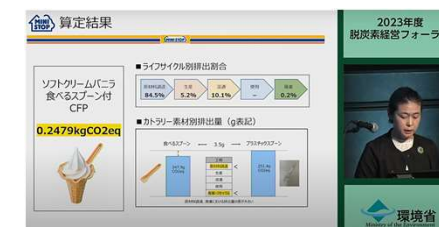
- 実務責任者を明確化する
- 関連部署などの協力体制を確保する
 - 製品・サービスに係る幅広いプロセスの把握が必要となるため、関連部署のヒアリング・データ提供の協力体制が必要である
- 経営層のコミットメントを担保する
 - 上記のような部門を横断する取組を円滑に推進するため、経営層のコミットメントが必要である

ロールモデルの創出

環境省/政府が本事業に関して発信・発表することに対し、積極的に協力する

- CFPガイドライン¹等において取組を記載する
- 合同報告会【非公開】：モデル事業参加企業のみが集まり、成果を共有する
- 脱炭素経営フォーラム²（仮称）【公開】：モデル事業の取組等を発表する

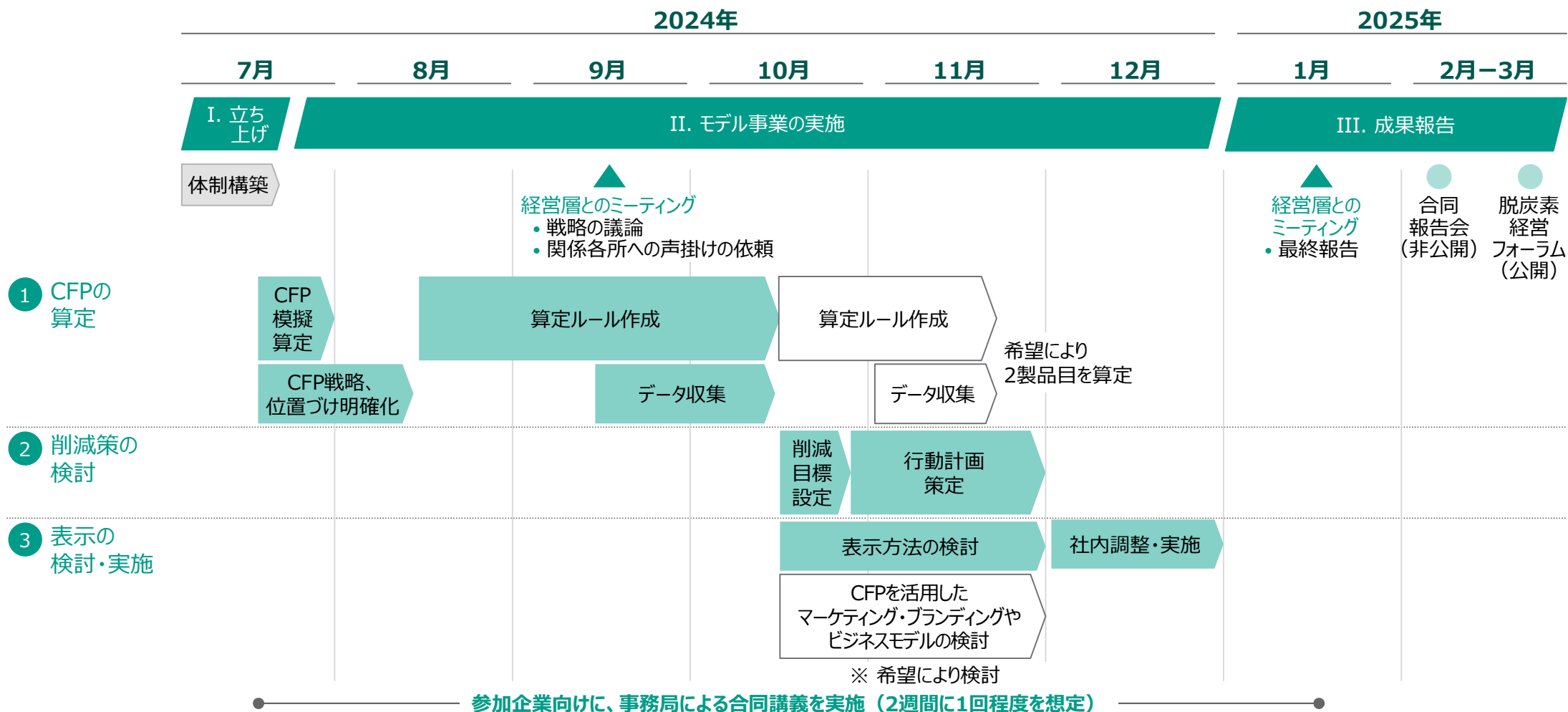
本事業への取組やその成果を積極的に对外発信・発表する



脱炭素経営フォーラム
(2023年度) の登壇の様子

モデル事業の実施スケジュールのイメージ

■ 約6カ月間にわたり対象企業のCFPの算定・削減計画の検討・消費者への表示に取り組む



合同講義（解説セッション）のスケジュール

- 2週間に1回程度の頻度で以下のとおり実施予定のため、参加企業には予定の確保をお願いしたい

日付	時間	場所	日付	時間	場所
① 7/16 (火)	13:00 - 14:30	東京日本橋 or オンライン	⑦ 10/7 (月)	13:00 - 14:30	東京日本橋 or オンライン
② 7/29 (月)	13:00 - 14:30		⑧ 10/21 (月)	13:00 - 14:30	
③ 8/5 (月)	13:00 - 14:30		⑨ 11/5 (火)	13:00 - 14:30	
④ 8/26 (月)	13:00 - 14:30		⑩ 11/18 (月)	13:00 - 14:30	
⑤ 9/9 (月)	13:00 - 14:30		⑪ 12/2 (月)	13:00 - 14:30	
⑥ 9/24 (火)	13:00 - 14:30				

参加企業の採択において考慮する主な観点

- 以下の観点及び業態や企業規模等を総合考慮して、採択する企業を決定する
(採択にあたっては、必要に応じてヒアリング等を実施する可能性がある)

要件の区分

基準の概要

必須要件

- ① CFP算定に取り組む製品・サービスが決まっている
- ② 経営層の関与を含め、モデル事業遂行に必要なリソースを確保している
- ③ 本モデル事業での取組内容についての環境省/政府からの発信に協力できる

加点要件

- ④ CFP算定結果の表示の予定がある、又は表示に向けた具体的な検討が可能である
(製品への表示やHPへの掲載、イベントでの発表等)
- ⑤ 自社戦略におけるCFPの位置づけが明確である
- ⑥ 国民の利用頻度が高い等、対象とする製品・サービスの社会的インパクトが大きく、消費者の行動変容への影響力がある

(参考)「他社製品との比較を想定しない自社ルールによる算定」について

- 本事業では、カーボンフットプリントガイドライン（経済産業省・環境省）を参照し、他社製品との比較を目的としない、自社ルールによる比較的簡易な取組を実施

カーボンフットプリントガイドライン（経済産業省・環境省）【抜粋】

CFPの算定を実施する際は、どのような目的で、誰に向けたCFPを算定するのかを明確にしなければならない。またその上で、その用途を踏まえ、どの程度の客観性や正確性を狙ったCFP算定とするか、判断しなければならない

本指針では、CFP情報の利用者から求められる客観性に応じて、CFPの算定で満たすべき要件を以下の2段階で整理している

基礎要件

全てのCFP算定で満たすべき基礎的な要件

比較されることが想定される場合

他社製品と比較されることが想定されるCFPの算定で、上記に追加して満たすべき最低要件※

※「比較されることが想定される場合」で算定する場合においても、基礎要件で定められている要件は満たす必要がある

2段階の要件それぞれの活用シーンの例を、右記にて例示している。ただし、これらはあくまでも例示であり、2段階の要件のどちらを選択すべきかは、算定者が自らが置かれた環境に応じて判断しなければならない

参考: 想定されるシーンの例

満たすべき要件

基礎要件

- ・ 自社のサプライチェーン全体の排出量の把握、排出源の多いプロセスの分析
- ・ 自社製品の排出量の削減計画の策定、削減推移の測定
- ・ サプライヤに対する排出削減の協力要請
- ・ 金融市場・評価機関等からのScope3排出量に対する開示要求への対応
- ・ 自主的なCFPによる企業/製品ブランディング



比較されることが想定される場合

- ・ CFPを活用した公共調達
- ・ CFPに基づく規制等
- ・ 顧客企業におけるグリーン調達行動での要件化

(参考) 過年度の本モデル事業の詳細

■ 過年度の本モデル事業の内容等は、以下で知ることができる

CFPガイドライン (別冊) CFP実践ガイド

カーボンフットプリント ガイドライン
(別冊) CFP 実践ガイド

2024 年 3 月

経済産業省、環境省

脱炭素経営フォーラム (動画)

BCG BOSTON CONSULTING GROUP

| セッション③
製品・サービスのライフサイクル
を通じた温室効果ガス
排出量算定・表示
推進事業

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.
20240313 脱炭素経営フォーラム (2023年度)

本年度モデル事業参加企業と算定製品、発表者

甲子化学工業
株式会社



防災ヘルメット
HOTAMET

企画開発部
部長
南原 徹也

チヨダ物産
株式会社



紳士靴
「ハイドロテック
ウルトラライト」

商品部
CSR担当
松田 徳子

株式会社ハースト
婦人画報社



SDGs関連イベント
「ELLE ACTIVE!
FESTIVAL 2023」

社長室
サステナビリティ
マネージャー
大竹 紘子

マルハニチロ
株式会社



白身魚タルタルソース

経営企画部
サステナビリティ推進
グループ
グループ長
佐藤 雄介

ミニストップ
株式会社



ソフトクリーム (バニラ)

環境・
コミュニケーション部
部長
迎 真紀

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.
20240313 脱炭素経営フォーラム (2023年度)

URL:
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/guide/CFP_jissen_guide.pdf;

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=aWYoW7-goSc>;

